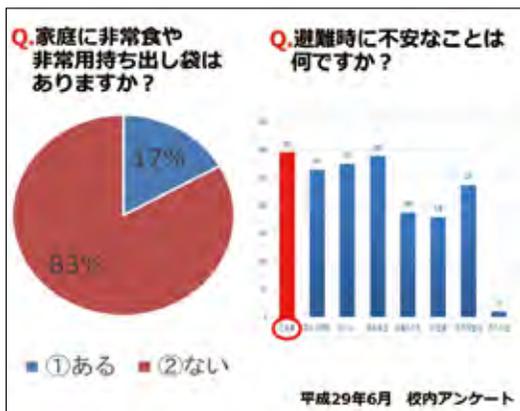




福岡県立三井高等学校 家庭クラブ  
顧問 高山 美津子

## 1 はじめに

本校は福岡県の南部小郡市にあり、普通科にスポーツ健康コース、福祉教養コースという特色あるコースが設置されています。平成28年に発生した熊本地震では、被害の大きさに大変驚き、災害は他人事ではないと改めて再認識しました。そこで、本校家庭クラブ（「創造」「勤労」「愛情」「奉仕」の4つを基本精神とし、生活・地域課題を解決するため家庭科で学んだ内容を発展させて研究活動を行っている）では、生徒に防災に関するアンケート調査をおこないました。しかし、実際に避難経験がある生徒は全体の6%で、半数以上の生徒が避難場所を把握しておらず、非常用持ち出し袋などの準備ができていない生徒はわずか17%でした。そのため、日頃から防災に向けた意識を高めるとともに災害時の具体的な対策として「家庭でつくる非常食」「災害時の情報収集」の2つの研究に取り組みました。



## 2 活動内容

### (1) 家庭でつくる非常食

災害時に一番心配されることは食事です。状況によっては電気やガスなどが使用できない場合もあることから、自然解凍するだけで食べることができるものを考えることにしました。冷凍庫で保存でき、日常でも食べることができるため、新たなスペースの確保は必要ありません。避難所では野菜不足から便秘などの症状が出ることがわかったため、小郡市で多く栽培される小松菜を練りこんだ小松菜パウンドケーキを開発しました。この調理法については生産者、地域の団体、市役所職員と合同で料理教室を行い、有効性について検証を行い、好評を得たところです。



### (2) 災害時の情報収集

災害時には安全確保の上からも正確な情報の把握やコミュニケーションは大切です。しかし有効な手段である携帯電話だけでは電源確保の面から不安が残ります。アナログ的な手段で解決策がないか研究しました。

研究中、ボランティア活動をする時に小さな文字が読みにくい高齢者や筆談で会話をする聴覚障がいの方がいることを知りました。そこで、携帯でき、繰り返し使えるホワイトボードを作ることにしました。平成29年九州北部豪雨が起き、被害のあった朝倉市の避難所で避難者間の会話などの生活音が気になるという新聞記事を読み、この困りごとの解決につながればと考え、作成した筆談ボードを届けました。この作成方法や備蓄については、市議会との意見交流会で提案したり、保育所で園児と一緒に作成したり、学校行事や県や地域の研究発表大会で紹介し、市内各所や県内の約88校に設置していただいたりしました。



災害時の情報収集（筆談ボード）

### 3 コロナ禍における活動の工夫

これまで地域の方との非常食の研究、防災避難訓練、筆談ボードの設置、研究内容の発表などを毎月実施し、地域との協働活動も充実していました。しかしながら、新型コロナウイルスによる感染症が蔓延し、校内の協働活動すら難しく、地域の方と減災について考え、活動することが困難となりました。そこで、実施方法や啓発活動をオンラインや市内広報誌を活用することにしました。市内全戸に配布される広報誌でローリングストック法や非常食の紹介をしたり、校内コンクール「三井高減災プログ



ラム」の後援や審査員を依頼し、オンラインで実施したりすることによって、コロナ禍においても校内での活動や地域との協働活動が実現しました。

### 4 おわりに

地域と本校の防災・減災の取組は今年で5年目を迎えました。新型コロナウイルス感染症の拡大により、これまでと同様の活動を実施することは困難となりましたが、災害はいつどこで発生するかわかりません。今後も地域内の様々な機関と工夫して活動を模索し、防災・減災の取組を地域と共に継続して行うことが本校の防災・減災活動の目標です。